



仲野詩織さん

3年(白潟3区)

「素直な心」を持ち続けて、夢に向かつて一生懸命がんばろう。たとえ失敗してもくじけず、前向きに生きていこう——学年のつどいを終えた今、私はそう考えています。

2月19日、進路学習のまとめとして行われた学年のつどいは、多くのことを学びました。将来がはっきりと決まっている友達の決意の言葉に刺激され、私も早く自分のやりたいことや夢を見つけて、がんばりたいと思うようになりました。



末永さん宅は、核家族化している現代では珍しい大家族。構成は茂子さんに息子夫婦と孫夫婦それからひ孫が4人の計9人。

「ひ孫がいるから家にも少しも寂しくありません」という。

茂子さんは昭和8年、20歳で結婚。ご主人は深川養鶏農協の初代組合長「それまで30~40羽程度しか飼っていなかった採卵用の鶏を、結婚した年に一挙千羽に増やし、大変苦勞しました。当時、果樹園や養蚕もやっており、家の近くは畑ばかりでした」と振り返る。

今の楽しみは「公民館活動で始めた「ちぎり絵」。萩まで習いに行っていたこともあり、百枚以上はつくりました。季節に合った絵を額に入れ飾って楽しんでいます。高齢者生きがい作品展にも出し



自分の将来を輝いたものにするためにある今という時間を、まず最後まで悔いの残らないようにしていきたいと思えます。  
Dreams Come True —夢をかなえよう—これを合言葉にして…。

### ふるさとながと ⑥0

## こんにちは



深川直江さん  
(旧姓・山口)  
(福岡市東区)

好きです “ながと”

略歴

昭和12年福岡県飯塚市で生まれる。  
小学校2年から中学校3年まで仙崎青海区に住む。  
現在、福岡市東区に在住。

桜の里親になって、数年になります。それが御縁で、広報紙を送っていただくようになりました。(海の香りがします)  
ながとの様子を、手にとるように、知ることが出来ます。  
年々福祉について発展される事が、一番嬉しいことです。  
私も福岡で、民生委員になって四期目、12年になります。まだまだ未熟ですが、福祉について勉強中です。  
毎年、年頭にながとの計画を見せていただいて、私の学生時代を思い出します。  
あの山、あの海、この街、一つ一つ思い出がよみがえってきます。



▶中学3年の時、青海島井尻の浜で

夕日の沈む水平線  
あの風景が、いつまでも自然

のままであってほしい。そしてまた活性ある「ながと」であってほしい私です。  
金子みすゞの街、夢のある童謡と自然が続く「ながと」が、大好きです。  
私の桜、一度見たいものです。  
満開の時に 楽しみます。